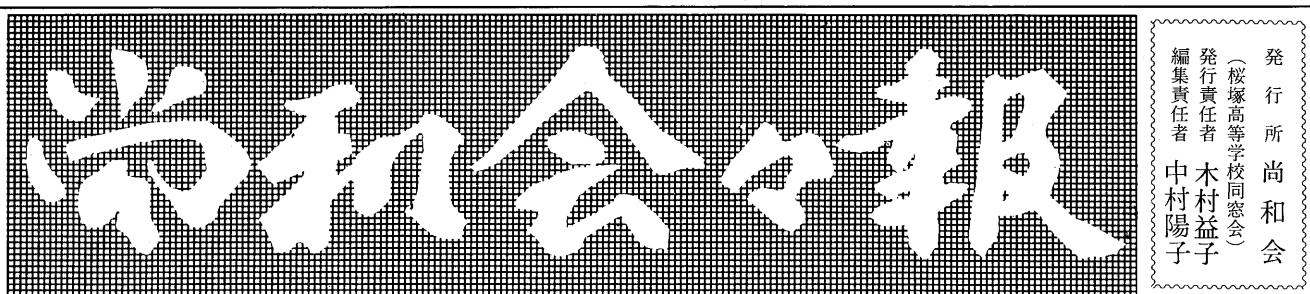


(1)

## 尚和会報

昭和53年5月1日

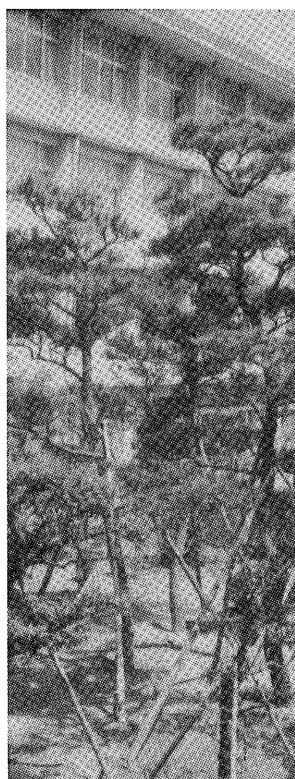


発行所 尚和会  
(桜塚高等学校同窓会)  
発行責任者 木村益子  
編集責任者 中村陽子

新しい茶室にて……

## 昭和53年度総会御案内

消えゆく講堂



(新恩露園)

昭和53年5月21日(日)12時より総会、12時30分より軽食パーティを用意しています。やがて取壊しになる旧講堂にて、思い出のパーティをいたしたいと思います。福引き等楽しいアトラクションも準備の予定です。例年行っています野点は、今年は新校舎に立派なお茶室が出来ましたのでお茶室で一服差上げます。なお写真部による撮影も予定していますので、集合写真、個人共に大いに御利用下さいませ。

### 名残りを惜しむ講堂

尚和会々長

木村益子

申しあげます。

五月の風が、緑の香りを、たづさえて訪れて参りました。

お健やかに、お過しのこと

人生に、たとえますならば、

尚和会は去年秋、関係各位の祝福のもと、特に盛んに、無事終了することが出来ました。

これまで、皆々様の愛校心や、先生方のお勧め故と、尚和会々員の御協力を得て、

半生の成長のよろこびとも考

と存じます。

ここ、桜塚、母校では

関係各位の祝福のもと、特に

盛んに、無事終了することが

出来ました。

これも偏に、皆々様の愛校

心や、先生方のお勧め故と、

輪を抜け下さいます様、お

願いする次第でございます。

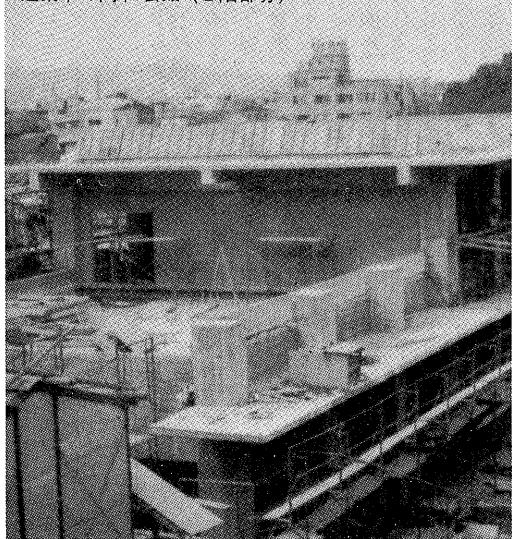
さて不況の続く世相、きびしい経済下の中にあるつゝも、行政の暖かい、はぐくみで、新校舎も最後の付帯工事を残すだけとなりましたこと、全く御同慶にたえません。

その上、待望の会館(尚和会館)も完成間近。ここに、大きく希望をたくして、同窓の

輪を抜け下さいます様、お

願いする次第でございます。

建築中の尚和会館(2階部分)



## 写真部

## 茶道部

## 記念写真やスナップを撮影

## いたしますので御自由にお

## 申しつけ下さい。

- 一、総会(事業報告・会計報告・その他)
  - 二、奇術
  - 三、福引き
  - 四、パーティ(サンドイッチ・ジュース等)
- (当日、多少変更のある事をお含み下さい)

### 総会プログラム

(12時より講堂にて)

なお、本年度の総会は、まだ残って居ります講堂で“名残りを惜しみつゝ”挙行する運びとなりました。過去へのノスタルヂイ一杯に、そして何としても明日へのみのりの多い同窓会となります様に……。

各氏の御発展を祈つて、御案内旁々御挨拶とさせていただきます。どうか、お忙しいとは存じますが、友人・御家族、お誘い合せの上、御越し下さいま

御挨拶

校長  
山本俊雄



かわって、食堂の一階に集会室が建設され、在校生と卒業生のために使用されることになります。又、旧講堂が撤去され、北側の全面が運動場になりますが、古い桜塚の保存については、慎重に配慮したいと考えております。

何分、校舎をすべて南側に移したものですから、正門も南北になり、久しうぶりに御来校の同窓生各位には、その変化に驚かれることと思いますが、永年勤続の先生方ともよく相談し、良き伝統の上に、新しく桜塚高校を築いてゆく覚悟でございます。

今後共、ご協力ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

昨年は桜塚高校四十周年に際し、尚和会々員の皆様より、絶大な御援助を賜り、盛大に記念式典を挙行することが出来ましたことを、深く感謝いたしております。この上は、五十周年に向つて、全職員一致して、新しい時代に対応して、一層充実した桜塚高校を創るべく第一歩を踏み出したい、と念願しております。

校舎の改築はほど終了し、この五月には新しい食堂が校

舎の西側に完成いたします。

就任ご挨拶

定期制教頭 森川五郎



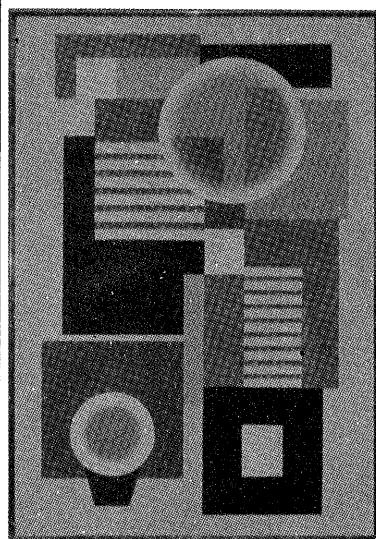
このたび、一月一日付をもつて、はからずも伝統ある本校に勤務することとなりました。

浅字非才の身で、前任の中島清先生のあとを全うできるかどうか危惧しておりますが、幸い山本俊雄校長先生のご指導と先生方のご協力を得まして、何とかその職責を果たしたいと決意しております。何とぞ前定時制教頭同様、暖かいご支援の程お願い申上げます。

森川五郎

た運動場で、たまつている雨  
水を雑布で吸い上げながら、  
トンボで地面をならし、小石  
を拾い上げている姿に接し、

現職員 鶴崎熊太



薰風の候となり学校の緑も  
美しく輝いてまいりました。  
卒業生の皆さん、その後お  
元気でお幸せにお過ごですか、  
私も本校に参りまして、早や  
三十四年を過ぎました。

今は皆さん方の子供さんを  
教えるようになり、孫や友達  
に接するような気持ちで、楽  
しく年を取るのも忘れて、多  
忙な生活をいたしております。

赴任いたしました当時は、  
豊中高女時代で年も若く、未  
熟ではありましたが、教育の  
意欲に燃え、一生懸命に張切  
つて指導し、今から考えます  
と真剣すぎて、心の余裕が少  
く、厳しそうな教師ではなか  
ったかと、思つたりしており  
ます。最近では、どうしたら  
最も良い教育が出来るかと反  
省をし、一日一日を深く噛締  
めようになりました。

これも年のせいかも知れま  
せん。又美術の教育者として  
常に生々とした新鮮な感覚で  
指導出来るよう、自己の研修  
に励み、制作に精進いたして  
おります。

只今は来る五月三十日から  
六月四日まで京都市美術館に  
おいて開催される、私達の展  
覧会である、新創美術展の出  
品作品60号2点を制作してお  
ります。作品は抽象的な作風  
ですが、機会がありましたら  
どうぞ御笑覧下さい。

また掲載されておる絵の写  
真は、数年前、香港方面に旅  
行しました際、街の表通りか  
ら見ると大きなビルが立並  
んで奇麗な街でしたが、裏側  
から見ると、色々な職業の人  
達が、素朴で種々雑多な生活  
をしているのに深く心を引かれ、  
その時スケッチしたのを題材として、描き上げたもの  
で大きさは60号位です。

昭和53年5月1日

## 尚会報

(3)

学校の方は、新校舎も教室は一応すべて完成し、只今はブールを埋めてその上に、一階が食堂で二階が小会議室、（同窓会の集会にも使用出来る）立派な洋館が建設中で、完成は来る五月下旬頃の予定です。これが出来ましたら、皆さん方の利用も多くなり、親しくお目にかかる機会も出

ることと想い、今から楽しみしております。庭園の方も、恩露園は大体移植されました、恵風園はこれからで、蔭ながら努力しております。出来ることなら私の在職中と思つております。

最後に皆様の御多幸を祈つてお別れいたします。

「今年何年生ですか？」  
「子供が桜塚を卒業しました。  
「今何年生ですか？」  
「孫ができました。」

…と近況を聞き、ともに年令を忘れ、あの頃の先生と生徒になつて、なつかしい昔話

に花を咲かせることができた。

この雰囲気にひたりながら、まだ頑張らなくてはいけない

という處です。

好きだった写真撮影も、この頃すっかり子供にバトンタッチという始末で、その代り

に四十八年の四月に転居した今、せまい庭いじりで、石や草や木をあちこち移しては、

あ、でもない、こうでもない

いうわけで、休日は殆んど庭に出ていることが多い、在宅の多い様な生活ですので、皆

が此處五年来、いわゆる四十腕、四十肩と云うのに悩まされ、ひどい時には左肩から二の腕にかけてシビレと共に激痛が走るのである。

正式には頸椎・頸腕症候群と云うそうである。このため

此頃では、いつもぶつけ本番で勿論スコアも良い筈がない。それは構わないのだが此頃ではコースを一巡りすると膝の関節が痛んだり、脚がつたりするのである。

運動不足は足の老化から進んで来たのである。事態は正に深刻である。

ここに至つて過日ハンドボ

&lt;/div



母校今昔

この校長が、庭づくりに熱心で、かの恩露・恵風の二名庭を造園師に造らせたのである。かつての旧校舎は緑の学校として表彰された。

特に三つの鐘と音楽室から恵風園へぬけるガラス張りの丸い階段は、校長御自慢のものであり、私達卒業生の心中にも深く印象づけられているものである。

やがてとり壊しになる講堂で、最後の卒業式をしたいと本年の卒業生達は自ら申し出て大掃除をし、思い出の卒業式を行つたという話を聞き、旧校舎に愛着を示してくれた後輩に有難うとお札を云いたい。

現在運動場が整地未完成のため、水はけが悪く、少しの

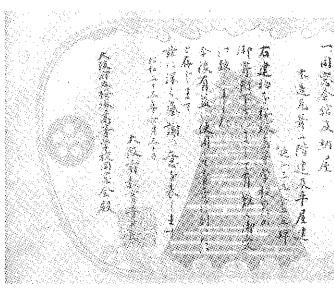
桜塚高校の前身である豊中高女が、この地に設立されることになったのは、大手前高女の保護者から、大阪府へ要望が出されたことに始まる。当時は、知事・学務部長・大手前校長が共に熱心に女学校設立に協力され、尽力された由、かの地に設立の予定をたてた際、地主の良本さんの、土地提供という大きな恩恵のお蔭で話が進み、原田神社の高畠さん達の御尽力もかなりあったなどということである。はじめ、生野女学校に於て入学式が行なわれ、仮校舎が出来てから当地に移転、大手前女学校の教頭が初代校長として赴任された。

雨でも泥ぬまになるとか、それでも運動部の人は泥まみれになり、雑布で泥水をしぼり上げ、黙々とトレーニングしているという。

南庭にそびえる数本の木が整地のため伐られるという事になつたらしいが、あの木の中に、チユーリップソリヒトいう梢に白い花を五、六月につけるという名木があるといふ事で調べた所、この木はやはり非常に珍しい木だというので、プラッシング・ツリーになつた。

プラッシングツリーの方はすでに新校舎の方に去年植えかえられたが、未だに新芽がつかず、何とか無事、甦つてほしいものである。

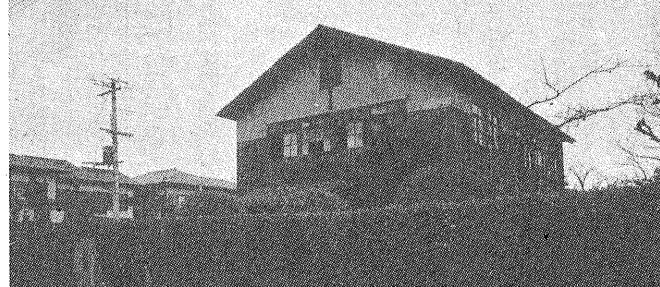
くかえは 事りい いにこの事が しりれと



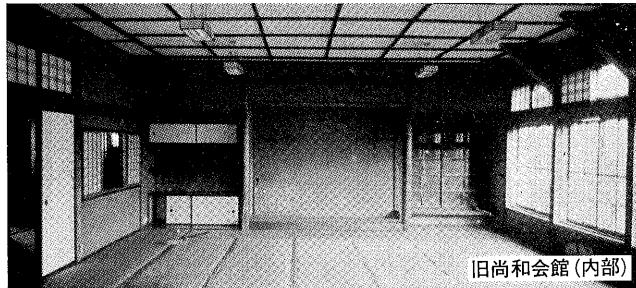
主事の美濃部さんの話を編集部でまとめてみた。  
その他くわしい事情を御存知の方は事務局まで御連絡を乞う。



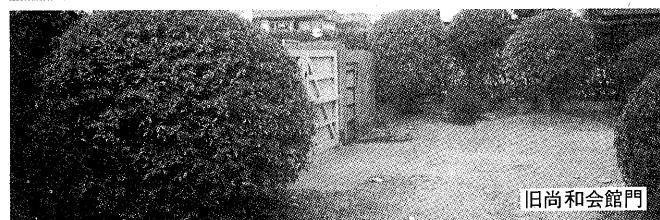
旧尚和会館(南側)



旧尚和会館全景



旧尚和会館(内部)



門館會和尚尚舊

育兒部

飯田英子

「育児部」覚えていらっしゃいますか、「そんなグラフがあつたかしら?」と首をかしげる人の方が多いよう思います。そんなに小さい、目立たないグラフが、ちょっとした、ひよんなことから、今は生きています。

旧木造校舎にあつた部室の方が、鉄筋の今の部室よりも、「あたたかさ」があつたようだ……(思い出ボロボロ)。昨年九月に、写真部OB会が発足しました。総勢七十余名、今後の活動に期待したいと思います。

武林治朗

僅か十一名の部員でしたけれど、チームワークは抜群で活動内容も大変充実していました。 ように思います。

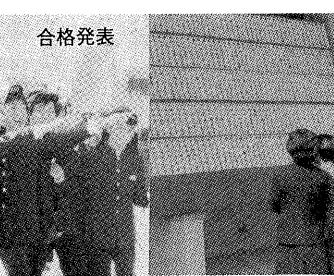
The logo consists of five white stars arranged horizontally at the top. Below them is the stylized Japanese text 'クラブ便り' (Club Kirby) in a bold, blocky font. At the bottom right is a circular seal containing the characters '陶芸部' (Ceramic Art Department).

(陶芸部)

卒業して以来、一度もお会いしていない方もあります  
が、お元気でいらっしゃいますか？  
いつかお目にかかるて思い出  
話ができる日を楽しみにして  
おります。

A black and white photograph showing a group of people gathered outdoors, possibly at a graduation ceremony, with one person in the foreground holding a diploma.

合格發表



卒業してから二十年以上も

## 混声合唱団のルーツ

**中村陽子** (高女八期)  
昭和二十三年、女ばかりの学校にどかくと多勢の男性徒が編入してきた。

まさにどかくという表現そのものの状態で、みると内に庭の芝生は、ふみつぶされ、ピカく磨いた床は砂だらけになり、ガラスはわれるし、机はガタガタになるし、私たちも唯呆然としていた。

そんな男性の中に唯一人長髪でいつもピアノを弾いていた男の子がいた。

彼とはピアノ仲間で既に見知りであった関係上、彼から混声合唱団を作ろうと相談をうけて、何とか形ばかりの合唱団が出来た。

当時はクラブといつても、勝手に好きな者同志が集つて楽しく、プレイをやつていていう感じで、私たちの合唱団も彼が曲を選んで来て、私が伴奏し、練習日も練習時間も決った訳でなく、指導の先生であるわけでもなかつた。

唯、今迄と違つて、クラブシックな曲は殆んどやらず、今までの美しい和音でなく、不協和音のハーモニーを、たのしんだ。

アレキサンダース・ラグタイム・バンドという音楽映画を五、六人の仲間で西宮遠観につたのも懐しい思い出である。私達の卒業予餞会には、混声合唱団で、学校始つて以来初めてのミュージカルを演ずる。

る事になつた。

脚本は今、テレビで大活躍の保富康平さん、勿論演出もして下さつた。

作曲・編曲は彼、伴奏は私、絵も得意だった彼が考案したもの。

いつだつたか、そのバッチをつけている在校生に会つて、とても懐かしかつた。

私達が音楽室で歌つたり遊んだりしていると、時折、高橋先生(英語)が来られて、ド

イツ語の歌を教えて下さつた。

この人のこと、ずっと以前、NHKの番組で指揮棒をふつて居られたのを見ました。

ハンドボール部も昭和15年

胎動を始め、16年から様々な苦難と共に歴史を重ね、やがて40年になろうとしています。

高女一期から現役までを結び、諸姉の絶えざる御協力のお陰で活動を続けています。

昨年度は高20期、竹本君達に御苦労をおかけして、又新しい名簿を発行し、会員の温い御援助で現役男女のユニフォームを新調寄贈することが出来ました。

七月には総会を持ち、母校

## ハンドボール部OBの皆さんへ

母校も新入生を迎えて一段と活気あふれた学園生活が続いていることだと思います。

昨秋行われた、母校40周年記念式典では、会長高3期、高津君がPTA会長として、すばらしいスピーチをされ、重ねて感激しました。

先輩ぶつて現役に檄をとばすOB、現役も仲々負げずにはした。

先輩ぶつて現役に檄をとばすOB、現役も仲々負げずにはした。

ハンドボール部も昭和15年

胎動を始め、16年から様々な苦難と共に歴史を重ね、やがて40年になろうとしています。

高女一期から現役までを結び、諸姉の絶えざる御協力のお陰で活動を続けています。

昨年度は高20期、竹本君達に御苦労をおかけして、又新しい名簿を発行し、会員の温い御援助で現役男女のユニフォームを新調寄贈することが出来ました。

七月には総会を持ち、母校

一 29  
— 29 — 2 竹本敬一君まで。では又総会などでおめにかかる日を楽しみにしています。

天王寺なんか、沢山のチケットを代表に送り、競技によつて違う駅で下車して行くのを頑張って下さいよ」と手にした。張れ!! と校歌の両方で励まして又、全く知らない人が胸につけた「OSAKA」のマーク丈で「どうでした? 僕達負けて帰ります。僕達の分も頑張って下さいよ」と手にした。又、夏休みには高松高女へ西大寺高女へといづれも校内に泊めて貰つての他府県への試合旅行や、お正月も二日かべーべーがスタンドから声援を送るママさんOBの活躍は本当に嬉しいものでした。

皆さんからの、いろいろの御意見や御近況等お待ち致しています。

尚、連絡は豊中市中桜塚2

## 小沢澄子 (高女八期)

母校も昨年四十周年を迎えた。

昨秋の市民会館での記念式典には、多数の懐い恩師の顔も見え、毎年の会合がすんだ後、期生を問わない和やかな集りの場もあって、懐しい一日でした。

母校が四十周年ということは、私もそれ相当に年を加えて、在学中は佐竹先生の御指導のもと、専らバスケットボールに熱中して過した私も、ボールに集中して過した私も、もうこの歳になつて、あと何年、文字通りのお転婆が続けられるか、残余年数が刻々と限られて来る様で、寂しい頃です。

従つて参加出来る機会には、出来る丈都合をつけて、バレーキーにも仲間入りさせられて、貴重な残余を一回で多くと、楽しんでおります。

今と違つて、戦後の混乱時代、何の楽しみもなかつた頃に、何かに一生懸命になれたことは幸せだったと。

そして結果として二十二年

— 24 — の國体への連続出場、うち二十三年には第三位の成績を残し、戦後の旅行等

思ひもよらない頃、國体列車に北野・夕陽・天王寺の代表校と顔を揃えての乗車、その中では、確か当時ラジオで

みしめております。

はやつた「二十の扉」なんかや

て、別れて行く風景、そして又、全く知らない人が胸に

張れ!! と校歌の両方で励まして又、全く知らない人が胸に

つけた「OSAKA」のマーク丈で「どうでした? 僕達負けて帰ります。僕達の分も頑張って下さいよ」と手にした。張れ!! と校歌の両方で励まして又、全く知らない人が胸に

## 運動部OB会について

元ラグビー部 谷田探成 (連絡先 TEL 0341-555-0)

「桜塚高校運動部OB会」が正式に発足したのは、丁度二年前の同窓会総会の日でありました。

母校を同じくする、同窓生の中で共に汗を流し、一つのボールを追いかけたり、或は苦しいスポーツを経験した者ののみの集いの場を作つてはどうかという所から、OB会がスタートしました。

現在の所は、山岳部・ハン

ドボール部・バスケットボール部・バレーボール部・ラグ

部が伴奏し、練習日も練習時間も決った訳でなく、指導の先生とてあるわけでもなかつた。

唯、今迄と違つて、クラブシックな曲は殆んどやらず、今までの美しい和音でなく、不協和音のハーモニーを、たのしんだ。

アレキサンダース・ラグタイム・バンドという音楽映画を五、六人の仲間で西宮遠観につたのも懐しい思い出である。私達の卒業予餞会には、混声合唱団で、学校始つて以来初めてのミュージカルを演ずる。

昭和53年5月1日

ですので、主人と共に仕事をしたい。

掃除(?)など毎日を過しておらっしゃいますか……?

分と御迷惑をおかけしたもの

(7)

# 尚和会会報

昭和53年5月1日

## 教職員人事異動

### 全日制

#### 転退職者

教頭 糸瀬 淳 千里高校教頭 全日制  
教諭(英) 有永 義徳 北野高校定時制教諭  
教諭(社) 山野辺鎮基 春日丘高校定時制教諭  
主事(事務) 大西 正勝 布施北高校全日制主事

### 全日制

#### 転入者 前任校又は(新卒)

教頭 井上 和郎 茨木高校全日制より  
教諭(英) 藤井 恒雄 布施高校全日制より  
教諭(社) 堀川 喜子 新任 神戸大卒  
主事(事務) 湊 喜清 生野ろう学校より

### 定時制

教諭(数) 平岡 千秋 箕面東高校全日制教諭  
教諭(数) 橋本 澄子 布施北高校全日制教諭  
教諭(社) 奥野 一生 北千里高校全日制教諭  
教諭(英) 森 喜久治 退職

### 定時制

教諭(数) 栄 一郎 東豊中高校全日制より  
教諭(数) 高橋 文明 新任 広島大卒  
教諭(社) 内藤 英一 新任 関西学院大卒

長い間の懸案でありました、名簿の事業にいよいよ着手いたしました。

会員の皆様の全面的な御援助なしには完成いたしません。

そこで、会員名簿カードが届きましたら所定の事柄をお書きの上、必ず事務局へお送り下さい。

また、今回の名簿は万全を期すつもりでおりますので、大層有効だと存じます。ぜひお買い求め下さい。

一冊二千五百円の予定で二千部程度発行したいと考えています。広告掲載については多数の方の掲載を予定しておりますので、お願いにあがりましたらよろしくお願ひ申し上げます。

尚和会の名簿整理についても、多數の方の掲載を予定しておりますので、お願いにあがりましたらよろしくお願ひ申し上げます。

## 尚和会の名簿整理

持元 宏 (高校28期)

尚和会の委員になって初めての仕事は、五十冊にもなる原簿の整理でした。

整理といって新たに書いていく方が多く、消息のわからない同窓生の数に驚かされました。

それで今回名簿発行を期に、少しでも完全なものにしようとする原簿の整備をする一方、大規模に住居表示の調査を行う予定になっています。それが完成すれば、かなり多くの方に会報などをお送りできるようになります。その会員の方々のお便りの中に、会報が全然送られてこないが、会費切れなどのあります。あるいは住所変更はどこへ通知すればよいのか、あるいは住所変更はどう

## 創立40周年記念募金ご報告

母校四十周年記念行事のための募金に御協力下さいました

なお、募金協力者には記念誌を送らせていただきました。  
もし未着でしたら御連絡下さい。(住所の外に期記入を忘れないこと。)

豊中市中桜塚四一一一

尚和会係

## 名簿の発行について

中村陽子

会報発行協力金のお願い

行を考える他ない状態です。

会員の親睦を目的とした尚和会にとつて、会報のはたす役割は重要です。一人でも多くの人に名簿の整理をすすめていますが、それに伴って会報発行費は鰐のぼりに増えています。特にその郵送費が軽視できません。現在、一万七千人余の会員の内、名簿整理の関係上ほど、一万人にしかお届けできませんが、それでも送料だけで五〇万円に達します。

会員の親睦を目的とした尚和会にとつて、会報のはたす役割は重要です。一人でも多くの人に名簿の整理をすすめていますが、それに伴って会報発行費は鰐のぼりに増えています。特にその郵送費が軽視できません。現在、一万七千人余の会員の内、名簿整理の関係上ほど、一万人にしかお届けできませんが、それでも送料だけで五〇万円に達します。

行協力金をお願いします。一口五百円です。同封の振替用紙には、短信欄も設けてあります。次回の会報に順次掲載したいと考えていますので、その方もお忘れなく。

振替手数料は、尚和会にて負担致します。

現在尚和会の財源は、入会時にいただく会費だけですが、予算案でおわかりのとおり、これでは二年に一度程度の発

代わりとして、金額と御芳名とを掲載させていただきました。御了承下さい。

現在尚和会の財源は、入会時にいただく会費だけですが、予算案でおわかりのとおり、これでは二年に一度程度の発

お気付きの節、ただちに母校内尚和会係に御連絡下さい。

現在尚和会の財源は、入会時にいただく会費だけですが、予算案でおわかりのとおり、これでは二年に一度程度の発

な、校正ミスについては、お気付きの節、ただちに母校内尚和会係に御連絡下さい。

募金総額

五百二十万六千五百円  
(内、手数料 九万三千四百四十円)

総計

五百十二万三千六十六十円  
母校四十周年記念行事のための募金に御協力下さいました。

もし未着でしたら御連絡下さい。(住所の外に期記入を忘れないこと。)

豊中市中桜塚四一一一  
高四期 中村利治

高一期 孫工延子

高二期 山中喜代

高三期 小川英子

高四期 黒田美智子

高五期 肥塚正宏

高六期 原一仁

高三期 小倉澄子

高八期 藤本豊田寿夫

高一期 井田博

高二期 孫工延子

高三期 加納和

高四期 三田和弘

高五期 田中文子

高六期 三浦喜子



(9)

## 尚 和 会 會 報

昭和53年 5月 1日

昭和52年度決算

(自 昭和52年5月1日)  
至 昭和53年4月30日)

昭和53年 4月20日現在

収入総額 1,823,437

支 出 總 額 1,585,815

	科 目	予 算 額	仮 決 算
収 入	入 会 金	994,000	994,000
	雑 収 入	0	4,080
	前 期 繰 越 金	825,357	825,357
	合 計	1,819,357	1,823,437
支 出	事 務 費	100,000	1154,870
	慶弔費	10,000	3,000
	会館維持費	10,000	0
	卒業生記念品代	80,000	41,040
	東京支部援助費	20,000	20,000
	会報発行費	800,000	990,905
	総会費	150,000	121,000
	積立金	100,000	100,000
	名簿整理事業費	100,000	97,000
	予備費	449,357	58,000
	後期繰越金	—	237,822
	合 計	1,819,357	1,823,437

## 昭和53年度予算案

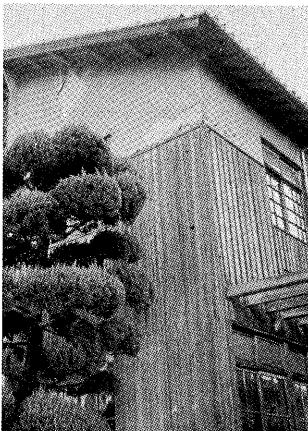
(自 昭和53年5月1日  
至 昭和54年4月30日)

	科 目	金 額
收 入	入 会 金	1,016,000
	雜 収 入	300,000
	前期繰 越 金	237,822
	合 計	1,553,822
支 出	事 務 費	100,000
	慶弔 費	10,000
	会 館 維 持 費	50,000
	卒業生記念品代	70,000
	東京支部援助費	20,000
	会 報 発 行 費	900,000
	總 会 費	150,000
	積 立 金	100,000
	名簿整理事業費	0
	予 備 費	153,822
合 計		1,553,822

○印は52年決算により増減予定

特別会計

	前期繰越金	収入	支出	後期繰越金
尚和会積立金	900,000	100,000	0	1,000,000
名簿発行積立金	344,829	0	0	344,829
会館維持積立金	163,550	0	0	163,550
合計	1,408,379	100,000	0	1,508,379



旧尚和会館玄関

## 前号の訂正及び追加

5月21日の尚和会総会後、学校で23期生の集いを開いたと思います。これまでクラス会は隨時催されていましたが、今回の総会を機に、定期的に23期会を開催できたらと思います。

1

後藤保一

(全)23期会開催

## 学校創立40周年記念行事費収支決算報告書

大阪府立桜塚高等学校創立40周年記念行事実行委員会

収入総額 ￥2,334,029.—

支出総額 ￥2,019,470.—

差引残額 ￥ 314,559.—

### 収入の部

科 目	予 算 額	決 算 額	差引増減額	摘要
P.T.Aからの援助費	1,000,000円	1,000,000円	0円	
尚和会からの援助費	1,000,000	1,000,000	0	
尚和会から追加援助費	220,000	220,000	0	記念行事当日の弁当料
雑 収 入	0	114,029	114,029	祝金108,000.— 預金利息6,029.—
合 計	2,220,000	2,334,029	114,029	

### 支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	差引残額(△赤字)	摘要
記念誌発行費	1,500,000円	1,350,000円	150,000円	@450.— 3,000冊
封筒印刷費	15,000	36,000	△ 21,000	記念誌を入れる色刷封筒
記念誌編集費	100,000	54,076	45,924	写真撮影用フィルム、交通費等
案内状作成費	40,000	33,500	6,500	案内状印刷、郵送料
式典雑費	15,000	20,154	△ 5,154	リボン、茶等
会場借用費	46,400	46,400	0	豊中市民会館大ホール、会議室・和室借用料
舞台装置費	100,000	177,790	△ 77,790	舞台組立、会場飾りつけ、照明人件費等
プログラム印刷費	30,000	43,000	△ 13,000	式典、催し物プログラム印刷
催物費	100,000	27,000	73,000	器具運搬料
当日弁当料	220,000	220,000	0	行事当日の来賓、職員の折詰弁当代
予備費	53,600	11,550	42,050	1学区中学校等への記念誌郵送料等
合 計	2,220,000	2,019,470	200,530	

差引残額については、尚和会の会議用備品(机、椅子等)に充当させていただきたいと存じますので、御了承下さい。

昭和53年1月14日

上記会計を監査いたしましたところ、帳簿及び関係書類は誤りなく適正に処理されており、これを確認いたしました。

会計監査 P.T.A 瞳 月 果 一 ⓪

尚和会 山本 孟 ⓪